

平成31年度
講義概要
2学年（43回生）

大阪府歯科医師会附属歯科衛生士専門学校

序 言

歯科衛生士養成所指定規則に示されている教育課程の総時間数は、1965時間であり、本校においても社会的なニーズに対応した週五日制を検討し厚生労働大臣（現文部科学大臣）に変更申請書を提出し受理された平成8年4月1日より歯科衛生士教育に必要な教育科目や時間数等を独自に体系化、教育カリキュラムの改善に各講師が努めてまいりました。

今回、講義概要を作成することにより学生が歯科衛生士の専門科目と、授業内容を理解し、学力向上に繋がりますよう努力いたしたく思っております。

今後ますます多様化する歯科保健医療のニーズに対応するため、各科目での重複又は補充項目を整理し歯科衛生士の資質向上を図ることを目的としています。

最後に、講義概要を発刊するにあたり何かとご多忙中のところ、ご執筆いただきました講師各位に心より厚くお礼申し上げます。

平成31年4月吉日

目 次

衛 生 統 計 学	1
口 腔 外 科 学	2
齒 科 矯 正 学	3
高齡者・有病者齒科学	5
衛生行政・社会福祉	6
社 会 福 祉 論	7
齒 科 麻 酔 学	8
患 者 支 援 論	9
小 児 齒 科 学	10
齒 科 補 綴 学	11
社 会 保 險 事 務	12
栄 養 指 導 論	13
障 害 者 齒 科 学	14
齒科予防処置論Ⅱ	15
齒科診療補助論Ⅱ	16
齒科保健指導論Ⅱ	17
う 蝕 予 防 処 置	18

衛生統計学

1. 目的

現代医療では、Evidence-Based Medicine (EBM；根拠に基づいた医療) という概念は必須である。医療専門職のひとつである歯科衛生士においても、予防処置や歯科保健指導などの状況下で、Evidenceに基づいた実践医療が要求されるからである。本講義では、歯科疾患の疫学指標を復習しつつ、衛生統計に関する基礎知識とその手法について学ぶ。そして、将来、口腔保健に関連する多種多様な情報から Evidence を自ら収集し、有用な Evidence を選択・評価することができるようになることを目的とする。

2. 授業計画：

講義（テキストの章とページ）

- | | |
|--------|--|
| 4 / 11 | 1. 2. 歯科疾患の疫学（疫学指標復習を含む）（第6章 p.91-124） |
| | 3. 4. 調査と統計（第7章 p.125-135） |
| 4 / 18 | 5. 6. 歯科保健統計（第7章 p.140-141） |
| | 7. 8. テスト対策（復習） |

3. 持参物：

- ・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-」第4版学建書院
- ・テキストにアンダーラインを引くためのマーカー（赤鉛筆、蛍光ペン）
- ・配布されたレジュメ（印刷物）

4. 評価の方法：単位試験、出席点

口腔外科学

1. 目的

口腔を原発とする疾患の概要と全身疾患の部分症状として現れる口腔病変につき習得する。
また、口腔外科手術の概要とともに手術を受ける患者様に対し、術前、術中、術後での衛生士の役割についても学ぶ。

2. 授業計画：講義

1回目：口腔外科とは

おもな診査、検査と治療法
全身疾患の理解

2回目：先天異常と発育異常

顎顔面の損傷

3回目：口腔粘膜疾患

炎症

4回目：嚢胞

良性腫瘍
悪性腫瘍

5回目：顎関節疾患

唾液腺腫瘍
神経疾患
血液疾患

6回目：処置・小手術の実際とその介助①

7回目：処置・小手術の実際とその介助②

8回目：全身麻酔下手術の概要

3. 教科書：歯科衛生士講座「口腔外科」（永末書店）

4. 評価の方法：単位試験

歯科矯正学

1. 目的

矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因、不正咬合の診断、治療内容の実際などを習得して、矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を歯科衛生士が柔軟に行える素地を養う事にある。また、不正咬合の原因である口腔にまつわる様々な悪習癖の除去への指導等、歯科衛生士にとって重要な役割についても授業を行っていく。

また、歯科矯正学の立場からみた目的に留まらず、他の歯科専門領域と連携協力することにより、さまざまな口腔顎顔面領域の疾患に対してより良い総合的な歯科治療を患者に提供することを目的として学習する。

2. 授業計画：講義

テーマ：歯科矯正学概論、頭部・顎・顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育

行動目標（SBOs）：

1. 矯正治療の目的や意義を説明できる。
2. 成長発育の概念を理解できる。
3. 顎顔面の成長発育を理解できる。
4. 混合歯列期の成長発育を説明できる。
5. 混合歯列期の成長発育を説明できる。

テーマ：不正咬合の原因

行動目標（SBOs）：

1. 不正咬合の先天的原因を説明できる。
2. 不正咬合の後天的原因を説明できる。
3. 正常咬合の概念を説明できる。
4. 不正咬合の分類を説明できる。

テーマ：矯正治療の生力学

行動目標（SBOs）：

1. 矯正力の種類を説明できる。
2. 作用機序、生体反応を理解できる。
3. 歯の移動を解説できる。

テーマ：矯正診断に関する知識

行動目標（SBOs）：

1. 診断に必要な検査を説明できる。
2. 頭部X線規写真分析を説明できる。
3. 3Dデジタルを応用した矯正治療診断。

テーマ：矯正治療に使用する器具・材料とその取り扱い方

行動目標（SBOs）：

1. 矯正用材料・器具を説明できる。

テーマ：矯正装置

行動目標（SBOs）：

1. 装置の構造を説明できる。
2. 装置の用い方を説明できる。
3. 矯正装置を図解できる。

テーマ：症例の分析・治療学

行動目標（SBOs）：

1. 症例を的確に分析できる。
2. 治療目標を立案することができる。
3. 治療開始時期を説明できる。
4. 治療の進め方を解説できる。
5. 顎変形症を概説できる。

テーマ：保定・総括

行動目標（SBOs）：

1. 保定の意義を理解できる。
2. 保定装置を図解できる。
3. 不正咬合の治療法を説明できる。
4. 不正咬合の予防法を説明できる。

教科書

全国歯科衛生士教育協議会 『咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』（医歯薬出版）

3. 学習方略（LS）：講義（板書、PCを用いた視覚教育）

4. 評価の方法：前半終了時に小テスト（記述式）を行い、習熟度を判定する。この小テストは平常点として加味する。

また、単位試験では、全般からまんべんなく出題し、広範囲の習熟度を判定する。

高齢者・有病者歯科学

1. 目的

高齢者の口腔内は一般成人と異なった特徴を持っています。また、高齢者は全身的、心理的および社会的状態においても、一般成人と同列に扱うことは出来ません。社会の高齢化に伴い、歯科治療を受ける高齢者は急激に増加することが予想され、衛生士にとって高齢者の特徴を理解しておくことは必要不可欠です。そこで、歯科衛生士として必要な高齢者の知識を習得するとともに、高齢者に対する歯科診療の介助、口腔ケア指導ならびに対応について習得することを目的とします。

2. 授業計画：講義

- 第1回 高齢者・有病者歯科学 総論
高齢者・有病者の環境
- 第2回 高齢者・有病者の全身状況
- 第3回 高齢者・有病者の口腔状況
- 第4回 高齢者・有病者への歯科衛生士の役割

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」医歯薬出版社

4. 評価の方法：単位試験、レポート、小テスト

衛生行政・社会福祉

1. 目的

歯科衛生士は、国家免許を要する専門職種として歯科医療や歯科保健活動に携わる。その身分や業務は法に規定・制約され、様々な制度やしくみに密接に関連している。衛生行政・社会福祉の講義においては、歯科衛生士が歯科医療や歯科保健活動に従事する上で必要な法・制度などの社会学的知識を習得し、行政的・社会的に円滑に業務を遂行できるようになることを目的とする

2. 授業計画：講義

1. 歯科関連法規 1（歯科衛生士法）
2. 歯科関連法規 2（歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健法、医療法）
3. 医療関係職種、その他関連法規
4. 社会保障 1（概論、社会保険）
5. 社会保障 2（医療保険）
6. 社会保障 3（介護保険）
7. 社会福祉
8. 医療の動向

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 歯科衛生士と法律・制度」医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験

社会福祉論

1. 目的

今日、社会福祉制度は私たちの日常生活に不可欠なものとして定着し、多く人々が活用している。そこで本講座では、社会福祉の理念、価値観、技術がどのようなものか、また、どのように歴史的に発展してきたのかを理解するとともに、社会福祉の主な個別の分野(子ども家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉、公的扶助と地域福祉)についても基本的な知識を深めることを学習の目的としている。

2. 授業計画：講義回数と内容

- ① 社会福祉とは何か(基礎概念と価値観、支援技術)
- ② 社会福祉をとりまく状況
- ③ 社会福祉の発展過程(社会福祉の歴史)
- ④ 社会福祉の法律と支援の仕組み(機関)
- ⑤ 子ども家庭福祉の現状と課題
- ⑥ 障害者福祉の現状と課題
- ⑦ 高齢者福祉の現状と課題
- ⑧ 公的扶助(生活保護を中心)と地域福祉の考え方

3. 教科書：教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考図書「よくわかる社会福祉」山縣文治、岡田忠克編著
ミネルヴァ書房

4. 評価の方法：授業態度(10%)、毎回の課題(40%)

単位試験(50%)

留意事項 毎回の課題の評価割合が高いため、丁寧に記載してください。

授業態度は、出席点ではありません。私語、授業中の居眠りなどをせず、授業に集中していることを言います。

歯科麻酔学

1. 目的

歯科治療を安全かつ円滑に行うために、歯科衛生士として必要な全身管理と基礎となる呼吸・循環に関する基本的事項を修得し、口腔領域特有の麻酔方法や精神鎮静法の概念を学ぶ。さらに、救急蘇生法に関して、医療人としての専門性を発揮できるレベルを到達目標として、基本的知識を学習する。

2. 授業計画：講義（担当：小谷 順一郎）

1. 9月5日（木）9：30～12：40（2コマ）（1、2組合同）
 - 1限：歯科麻酔学概論、バイタルサイン
 - 2限：有病者の歯科治療
2. 9月12日（木）9：30～12：40（2コマ）（1、2組合同）
 - 1限：歯科と痛み
 - 2限：局所麻酔
3. 9月19日（木）9：30～12：40（2コマ）（1、2組合同）
 - 1限：全身麻酔
 - 2限：鎮静法
4. 9月26日（木）9：30～12：40（2コマ）（1、2組合同）
 - 1限：障害者の全身管理
 - 2限：歯科治療時の全身的合併症・救急救命処置

3. 教科書：歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学（学建書院、平成28年1月第2版）

4. 評価の方法：単位試験

患者支援論

1. 目的

- ①対象となる人間の特徴を理解し、対象に合わせた支援が理解できる。
- ②専門職としての支援を考えることができる。

2. 授業計画

	内 容	
1回	健康とは：健康の定義とウェルネスの概念	講義
2回	看護とは：看護の定義と活動の場	講義
3回	看護の対象：人間のライフステージ	講義
4回	看護の対象：対象の尊厳や個別性について	講義
5回	安全安楽の技術：安全安楽とは、阻害因子	講義
6回	安全安楽の技術：バイタルサインの把握 急変時の対応	講義
7回	バイタルサイン測定 体位と移動技術	演習
8回	吸引の手技、吸引の必要性和注意点の理解	演習

3. 教科書：プリント配布

4. 評価方法：出席、授業態度 および 課題提出物

小児歯科学

1. 目的

小児歯科学は、成長発育過程にある顎口腔領域を理解し、これらをより健康に育成することを目的としている。「子どもは大人を小さくしたものではない」と言われるように、小児歯科医療には特異性があり、小児の歯科治療および診療介助を行うためには十分な知識および技能が必要とされる。本講義では、安全・安心に十分配慮した小児歯科診療および診療介助を行うために、小児の成長発育に則した歯科的知識、小児の行動への対応を修得することを目的とする。

2. 授業計画：講義

- 1) 小児歯科学概論
心身の発育
- 2) 顎顔面および歯列・歯の発育
- 3) 診療時の小児および保護者への対応法
小児の口腔保健管理法
- 4) 乳歯および幼若永久歯の特徴
乳歯および幼若永久歯のう蝕とその予防法
- 5) 小児歯科診療における診療補助
(乳歯および幼若永久歯の歯冠修復, 乳歯の歯内療法)
- 6) 小児歯科診療における診療補助 (幼若永久歯の歯内治療, 咬合誘導)
- 7) 小児歯科診療における診療補助 (外科的処置, 外傷処置)
小児の口腔疾患 (歯周疾患, 口腔軟組織の異常と疾患)
- 8) 総復習

3. 教科書：新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学 (クインテッセンス出版)

4. 評価の方法：単位試験、小テスト、出席状況出席および授業態度により総合的に評価する。

歯科補綴学

1. 目的

歯科補綴学の基本は歯質が崩壊あるいは歯や顎が欠損した場合に、人工装置を用いて修復することにより機能や形態の回復をすることを探求する学問である。そのために必要な基礎知識、補綴歯科治療の特徴や方法、歯科補綴装置の種類および製作法などについて理解することが本講義の目的である。しかし、近年回復のみならず欠損などによる継発疾病予防の観点から、歯科衛生士には診療補助だけではなく、患者指導や装着後の維持管理等への関与が求められている。これらへの理解が深まることも期待する。

2. 授業計画：講義

- 1 歯科補綴学の概要と基礎知識
- 2 歯の欠損に伴う障害
- 3 補綴歯科治療の検査・診断
クラウン・ブリッジの基礎知識
- 4 クラウン・ブリッジの臨床ステップ
- 5 有床義歯の基礎知識
- 6 有床義歯の臨床ステップ
- 7 インプラント
補綴装置の補修
- 8 患者指導・その他

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」(医歯薬出版)

4. 評価の方法：単位試験

社会保険事務

1. 目的

医療保険の内容を理解し、診療室での業務として積極的に参加できる歯科衛生士の養成。

2. 授業計画：講義

授業日程 1時間30分 計8回これを1日3時間4回実施する。

社会保険事務資料より作成した小テストを授業前半に実施後、解答及び解説を行う。

後半は資料にて解説、その内容について次回授業前半に小テストを行う。

カルテ、歯科衛生士業務記録等記載実地訓練等を行う。

3. 教科書：資料配布

資料：1. カルテ、1号用紙、2号用紙、レセプト等

2. 歯科衛生士業務記録

3. 診療報酬点数早見表 (①～④)

4. 処方せん、情報提供書、その他

4. 評価の方法：各小テスト及びカルテ記載等による添削

栄養指導論

1. 目的

我が国における現代の健康と食生活に関する問題や課題と歯科衛生士が必要とする栄養指導の知識を、栄養学を基に展開し具体的に学ぶ。

2. 授業計画：講義

1) 栄養素の消化・吸収・役割

2) 国民の健康と栄養の現状

資料：平成28年国民健康・栄養調査、平成29年度同調査の調査テーマ、食料自給率

課題：3日間の食事記録

3) 望ましい食生活、食事計画、食品分類、食事バランスガイド

媒体：3日間の食事記録を使ってバランスチェック

1日の摂取する食品量

4) ライフステージと食生活（乳児期、幼児期、学童期、思春期）

課題：幼児のための献立作成（1日分、栄養価計算を含む）

5) ライフステージと食生活（成人期、妊娠・授乳期、高齢期）

媒体：料理カード

課題：低栄養を予防する料理例

6) 疾患の治療食、特定保健食品

媒体：食品と塩分量他

課題：減塩のための料理

7) 媒体作成

グループで作成

8) 栄養指導の発表、まとめ

※ 国家試験問題に基づいた内容を講義する。

3. 教科書：医歯薬出版(株)「人体の構造と機能2 栄養と代謝」

東京法令出版株式会社「新食品成分表FOODS」

配布したプリントを使用

4. 評価の方法：歯科衛生士国家試験に準じたテストを行い、60点以上を合格とする。

授業の課題作成も採点に加える。

障害者歯科学

1. 目的

障害者歯科学は、臨床の場で特別な配慮（スペシャルニーズ）を必要とする患者さんに対し、安全で安心な障害者診療および診療介助、トレーニング、リハビリテーションを行うために、その概念や特性を理解し、口腔の健康の回復や口腔ケアを通して健康増進と機能回復だけでなくQOLの向上につなげるための知識と理解を深め、その対応と役割を習得することを目的とする。

【一般目標】

1. 障害者歯科医療の必要性を理解する
2. 障害者歯科における特徴・特性を理解する
3. 障害者歯科におけるトレーニング、リハビリテーションについて理解する
4. 障害者歯科において歯科衛生士としてのさまざまな役割について理解する
5. 専門性の高い歯科医療知識を習得し、他職種との連携やチーム医療の重要性を理解する

2. 授業計画：講義形式で行う。講義内容を以下に記す。

1. 障害者歯科学概論
 - ① 障害の概念
 - ② 障害の分類と根拠法令
 - ③ QOL、スペシャルニーズ、バリアフリー、ノーマライゼーション
2. 障害者歯科各論：各疾患について
 - ① 精神発達障害・心理的発達障害・行動障害
 - ② 運動障害（神経、筋系の疾患）
 - ③ 感覚障害、音声言語障害、精神障害など
3. 障害者歯科における歯科医療と行動調整
4. 口腔ケア、口腔衛生管理や療育活動
5. リスク評価と安全管理
6. 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割
7. 地域における医療連携

- ## 3. 教科書：
1. 最新歯科衛生士教本 障害者歯科（第2版）医歯薬出版
 2. 新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学 クインテッセンス出版
（2. は、小児歯科学の教科書と同じものを使用する）

- ## 4. 評価方法：
1. 筆記試験にて採点100点満点中60点以上を合格とする
 2. 宿題、レポート、出席状況、実習状況を加味する

歯科予防処置論 II

1. 目的

歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を修得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。

2. 授業計画

- 1 超音波・エアスケーラー（講義・模型実習①）
- 2 超音波・エアスケーラー（模型実習②）
- 3 超音波・エアスケーラー（相互実習①）
- 4 超音波・エアスケーラー（相互実習②）
- 5 超音波・エアスケーラー（相互実習③）
- 6 手用スケーラー（講義・模型実習）
- 7 シックルタイプスケーラー（相互実習①）
- 8 キュレットタイプスケーラー（模型実習①）
- 9 キュレットタイプスケーラー（相互実習①）
- 10 キュレットタイプスケーラー（相互実習②）
- 11 シャープニング
- 12 ルーペ（講義・模型実習・相互実習）
- 13 ルーペ（講義・模型実習・相互実習）
- 14 口腔内カメラ
- 15 まとめ・単位試験

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

歯科診療補助論 II

1. 目的

歯科診療全般にわたる基礎知識を活用し、臨床実習における実践力を身に着けるために知識を深め、基本的補助技術を習得する。

2. 授業計画

1. 印象材の取り扱い（相互実習・模型作成）
2. 印象材の取り扱い（相互実習・模型作成）
3. 印象材の取り扱い（精密印象材・模型実習）
4. ラバーダム防湿法（講義、マネキン実習）
5. ラバーダム防湿法（マネキン実習）
6. ラバーダム防湿法（相互実習）
7. 暫間被覆冠作製 I
8. 暫間被覆冠作製 II
9. 歯内療法における歯科診療補助（セッティング含む）
10. 保存治療における歯科診療補助（セッティング含む）
11. 補綴治療における歯科診療補助（セッティング含む）
12. 口腔外科における歯科診療補助（セッティング含む）
13. 矯正歯科における歯科診療補助（セッティング含む）
14. 全身疾患をもつ患者と診療補助
15. まとめ、単位試験

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版
新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料の知識と取扱い 医歯薬出版
新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科器械の知識と取扱い 医歯薬出版
歯科衛生士デンタルスタッフポケットマニュアル
第3版イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店

4. 評価の方法：単位試験・実技試験評価・出席率・授業態度（忘れ物、提出物など）

歯科保健指導論 II

1. 目的

歯科保健指導の難しさは、単に知識の伝達だけでなく、相手の生活態度や習慣を変えなければならないこと、さらに指導する相手が一定ではない点である。指導にあたっては各年代に応じた配慮と個人的な状況をふまえた指導が要求される。

- ①指導の裏付けとなる専門的知識をもつ。
- ②指導する具体的な手段や方法を十分に理解する。
- ③相手に伝達できる技術を身につける

2. 授業計画

1. 歯科衛生過程①
2. 歯科衛生過程②
3. 歯科衛生過程③
4. 歯科衛生アセスメントの演習
5. 健康に関わる地域の役割（老人保健）
6. 口腔機能の把握
7. 口腔のケア①
8. 介護予防と口腔管理
9. 介護施設実習概要
10. 介護施設実習媒体作成・練習
11. 介護施設実習媒体練習
12. 介護施設実習媒体練習
13. 媒体発表
14. 口腔のケア②
15. まとめ・試験

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版 医歯薬出版
よくわかる歯科衛生過程 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

う蝕予防処置

1. 目的

う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識・技術および態度を修得する。

2. 授業計画：講義および実習

1. 概要
2. 基礎知識①
3. う蝕活動性試験①
4. う蝕活動性試験②（相互実習）
5. う蝕活動性試験③
6. フッ化物の基礎知識①
7. フッ化物の基礎知識②
8. フッ化物の基礎知識③
9. フッ化物の応用実習①（相互実習①）
10. フッ化物の応用実習②（相互実習②）
11. 小窩裂溝填塞法
12. 小窩裂溝填塞法実習（相互実習）
13. メインテナンス
14. まとめ
15. 単位試験

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

一般社団法人 大阪府歯科医師会附属歯科衛生士専門学校

講 義 概 要

平成10年4月 初版
平成12年4月 改訂
平成14年4月 改訂
平成16年4月 改訂
平成18年4月 改訂
平成19年4月 改訂
平成21年4月 改訂
平成22年4月 改訂
平成23年4月 改訂
平成24年4月 改訂
平成25年4月 改訂
平成26年4月 改訂
平成27年4月 改訂
平成28年4月 改訂
平成29年4月 改訂
平成30年4月 改訂
平成31年4月 改訂

発 行 者 一般社団法人 大阪府歯科医師会
附属 歯科衛生士専門学校
大阪市天王寺区堂ヶ芝1丁目3番27号